

ここでは、治療を始めるときに大切な説明や体外受精を行う原因となること、そして治療周期前に確認しておくこと、検査の様子や治療への夫の同席状況、また患者さんのサプリメント飲用など多岐に渡り確認しておきたいことを取り上げて調べました。各施設の回答から現状がわかってきますので、それぞれの状況をみていきましょう。

1-1 体外受精を行う夫婦への説明に関して

説明は十分にできているのでしょうか？ ▶YES が60%

体外受精を行う治療施設では、患者さんへの治療説明についてどのように考えているのでしょうか？ 患者さんへの説明は十分にできていると思っているのでしょうか、不足を感じているのでしょうか、また、患者さんの理解不足を感じているのでしょうか。

十分に説明ができていると回答している施設は半数以上で60%（94件）あり、説明不足を感じることもあるとする施設は12%（19件）でした。また、患者さんに対して理解不足を感じることもあるとする施設は意外と多く43施設あり全体の28%と4件に1件の施設が不足を感じているという結果でした。医療提供者側が説明を十分だと思っても、その中の半数近くの施設で患者さんの理解不足を感じているという状況もあるため、説明方法やそのあり方も検討する必要があると感じます。

●説明会はどのくらいの施設で実施があるの？ ▶60%・94施設で実施

効果的な説明方法の1つが、多くの患者さんを一同に集めて行う説明会（セミナーや勉強会）です。その場で実際のスタッフが治療をどのように行うかなどを説明することで、事前に多くの夫婦に治療を理解してもらっておけば日々の診療もスムーズになります。こうした説明会の実施は60%にあたる93施設で行われています。

●説明会への参加条件は？ ▶58%で他院患者もOK、15%の施設で有料

自院の通院患者とする施設が38%、58%の施設で通院患者以外でもOKとしています。通院患者以外も受けられる説明会は、病院選びをするためにもよい参考となっているようです。

●説明会で説明するのは誰でしょう？ ▶83%の施設で医師が説明、培養士は61%、看護師は39%

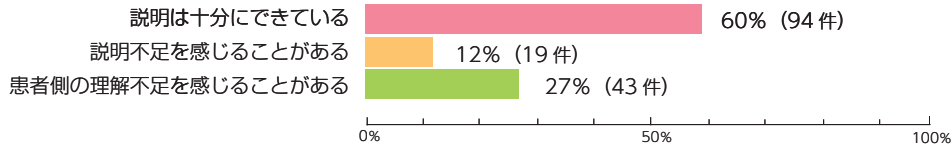
医師が中心となり、スタッフも参加して不妊全般の説明を行っていることがわかります。その中でも培養士と看護師の参加率が多く、そこにコーディネーターやカウンセラーが加わることもあります。

説明会で説明する内容はどのようなことでしょうか？ ▶治療の流れと排卵誘発方法はほぼ全施設で説明

23の項目をあげて、それらの実施状況を調べました。治療を受ける上で知っていれば心強いことばかりです。実施の多い順に紹介すると、●治療の流れ ●排卵誘発方法 ●費用 ●採卵手術方法 ●胚移植方法 ●妊娠率 ●年齢（加齢）と妊娠 ●麻酔と痛み ●胚について ●リスクのこと ●助成金 ●流産のこと ●精子について ●卵子について ●使用薬剤 ●自己注射について ●夫婦の協力の大切さ ●不妊原因と男女比 ●よくある質問と回答 ●医師の実績 ●栄養 ●いろいろな症例 ●運動 ●その他でした。以上、項目が項目だけに「あれ？ これって全項目が100%で

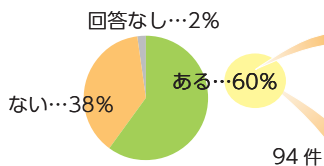
1-1 IVF-ICSI を行う夫婦への説明に関して

●説明会は……

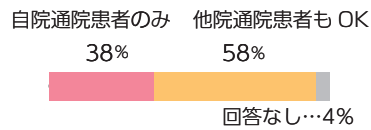


説明方法に関して

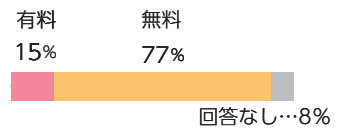
●説明会の有無



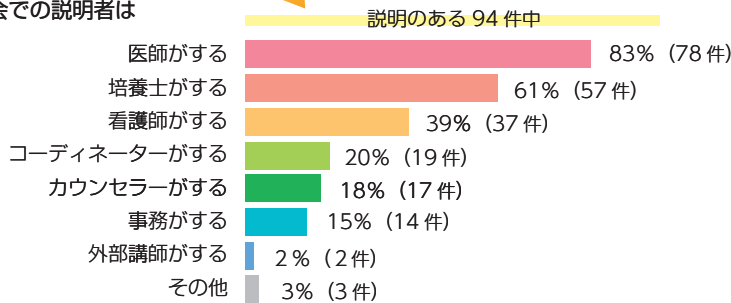
●参加条件



●参加費用の有無

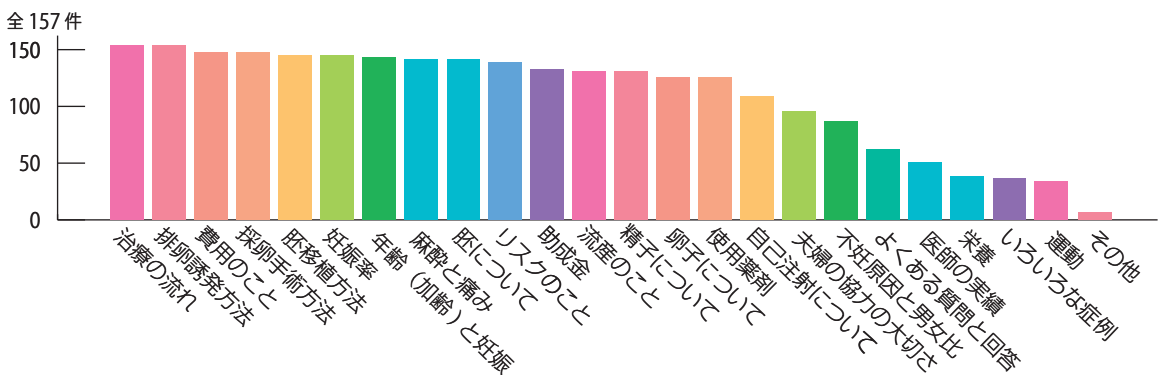


●説明会での説明者は



その他：・栄養士・検査技師・IVF 妊娠の経験者

説明に含まれているものは何ですか？



その他：
 ・遺伝カウンセリング ・男性不妊、難治症例の対策
 ・個別の不妊原因 ・クリニックの実績 など

はないの？」と思われるかもしれません。100%でない部分は、説明を対個人の診療中に行っているとの状況があるでしょう。もしも無いとするのであれば大いに気になるところです。

体外受精の相談について ▶個々の診療時に対応、ほかTELやメール、面談もある

●体外受精の相談方法にはどのようなものがあるのでしょうか？

体外受精を受ける夫婦にとって、不安や疑問、悩みや心配が付きものです。それら相談がある場合、対応するのも大事な仕事です。相談窓口としては外来という回答が多く、診察時を中心に行われていることがわかります。それ以外では、電話やメールで対応する施設もあります。カウンセリングを診療に取り入れている施設も多く、その場合は面談という回答も多くありました。

●相談に対応するのは誰？

相談窓口としては外来という回答が多く、対応するのも医師という状況がわかります。また、普段接する機会の多い看護師については、処置中も含めて何気ない会話から相談に対応することも多いでしょう。

コーディネーターが治療スケジュールに対応し、治療を進める段階で医師、そして採卵以降は培養士も対応しています。それら流れの中で、カウンセラーは心配や不安など専門的な相談にあたっているという様子です。

1-2 体外受精を行う場合の原因で多いもの ▶女性は年齢、男性は造精機能

体外受精となる原因は何でしょう。

その原因として最も多いものは、女性側の原因でした。女性側の原因では、1位は年齢に関して、2位が卵管に関して、そして3位が排卵に関してでした。一方、男性では1位が造精機能に関してで、2位が性交障害に関して、3位が精路通過に関してでした。

一般不妊治療では結果が出ずに、体外受精を受けるケースが多いことがわかります。このことから、治療が長期に渡っているケースも想像でき、どれくらいの期間、治療をしているか、また、最終的に出産まで結びつく夫婦がどのくらいいたのかなども知りたいところです。

1-3 治療周期開始時に確認していること ▶治療歴、妊娠歴、出産歴はほぼ全施設で確認

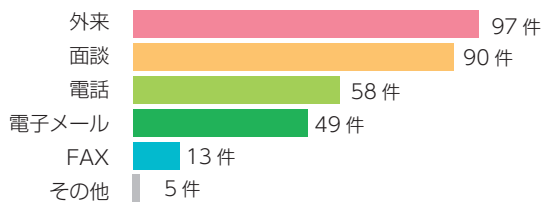
治療に先がけ、医師が患者さんに確認していることは何でしょう？

治療歴、夫婦生活（SEX）の有無、妊娠歴、出産歴、夫婦の入籍状況、夫婦の卵子と精子での治療であること、保険証、その他の8例をあげて調査をしました。その結果、治療歴、妊娠歴、出産歴が最も確認されていることがわかります。夫婦の卵子と精子であるか、及び入籍状況は共に83%の確認でした。これらは守らなければ事件に発展することもあるため確認のあり方は心配なところです。

その他確認していることでは、胚移植時の夫婦の意思確認、同意書の提出、戸籍謄本、検査結果、BBT（基礎体温）などがありました。

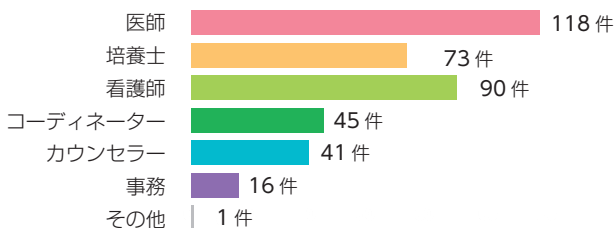
体外受精の相談方法としてあるもの

●体外受精の相談方法



その他：
HP内のQ&A など

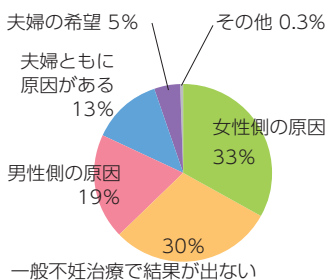
●誰が対応しますか



その他：
遺伝（カウンセリング）、カウンセラー

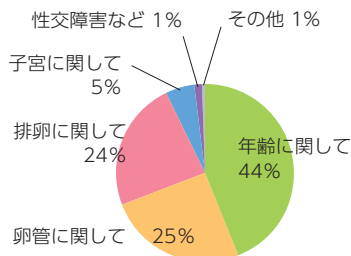
1-2 体外受精を行う場合の原因で多いもの

夫婦の原因



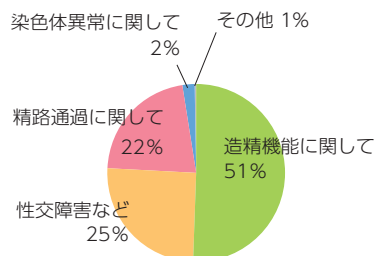
【その他の原因の内容】
原因不明
加齢・手術による妊娠能の低下
など

女性側の原因



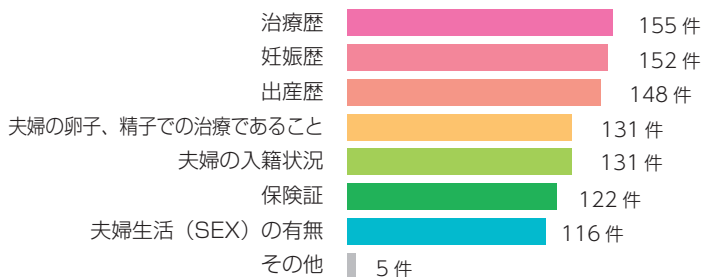
【その他の原因の内容】
内膜症
子宮内膜ポリープによる着床障害
原因不明
PCOS、抗核抗体
など

男性側の原因



【その他の原因の内容】
精子の濃度と運動率
運動能
(特にswim up不良が多い)
など

1-3 治療周期開始時に確認していること



その他：
胚移植の度毎の夫婦の意思確認
同意書の提出
戸籍謄本
検査結果
BBT
など

1-4 治療周期開始前に行う検査はどんなことを？ ▶精液検査、ホルモン検査、月経の様子、卵管検査など

10項目をあげて調べたところ多い順に、●精液検査 ●ホルモン値 ●月経の様子 ●卵管検査 ●子宮検査 ●基礎体温 ●AMH検査 ●卵巣検査 ●2～3周期前からの月経、ホルモン値 ●その他でした。

全て大切なことですが、その割合がグラフでわかります。

治療周期を始めるとき、排卵誘発方法の選択、また凍結融解胚移植では移植に適した子宮内膜をつくるのにホルモン値が重要です。精液検査は治療周期前は治療の選択に、治療周期中は受精方法の最終選択に欠かせない検査になります。

1-5 診察時の夫の同席率はどのくらい？ ▶採卵日の同席が多い！

赤ちゃんを産むのは女性ですから、不妊治療も女性が主体ということはわかります。しかし治療を受ける女性には、心身ともに大きな負担がかかってきますから、夫の協力は不可欠です。通院に同席するだけが協力とは言えませんが、要所々々で同席することは女性にとって心強いことでしょう。そこで、診察への夫の同席率を参考に調べました。

初診時、採卵日、胚移植時、妊娠判定時、普段の診察での同席状況は、採卵時が平均で52%と多く、次に初診時が31%と多いことがわかりました。グラフは参加率を25%ごとのレンジでまとめてあるため色が濃いところが夫の同席率が高いことを示します。色の濃さからも採卵日の同席率が高いことが一目瞭然です。

ただ、凍結胚移植が広まり、自宅採精も増えれば、今後は全体的に同席率も低くなるとの予想もできます。

1-6 患者が飲用しているサプリメントや代替医療についてはどのような対応なのでしょう？

サプリメントの飲用について医師はどのように考えているのでしょうか？

①サプリメントの飲用確認 ②サプリメントの飲用について ③治療を補助するものとして効果を感じているものの3項目について調査をしました。結果から大切なことがわかってきます。

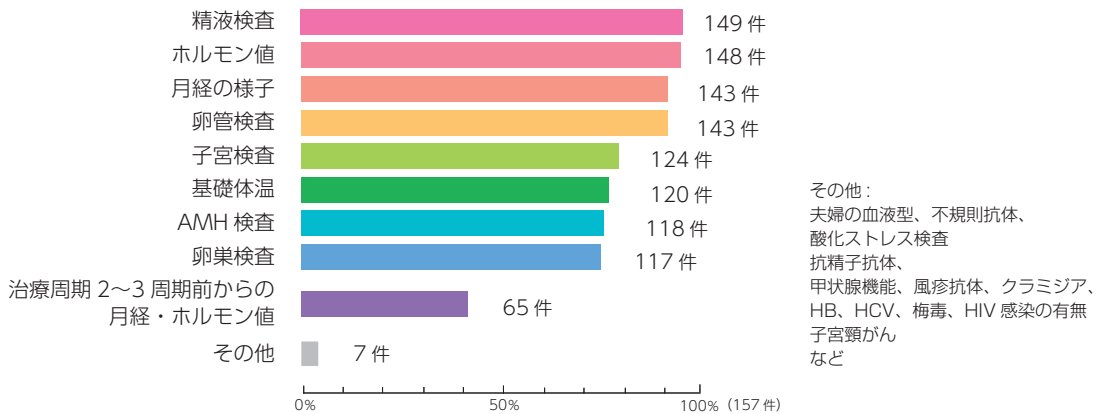
①のサプリメントの飲用確認は、半数の施設で行っていることがわかりました。サプリメントには色々な成分が含まれているため、治療周期における薬との関係からホルモン値に影響を与えることも考えられ、注意が必要です。

②サプリメントの飲用については、「患者さんによっては必要」とする施設が多くありました。

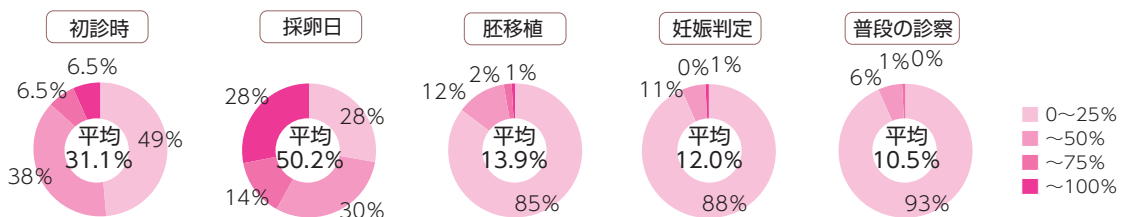
③治療を補助するものとして効果を感じているものは、栄養・食事指導が82件（52%）、運動指導が60件（38%）と多く、漢方は32件（20%）、鍼灸・整骨院27件（17%）、レーザー16件（10%）でした。

普段の生活習慣に関わる、食事指導と運動指導が上位を占めていることは、裏を返せば、生活習慣を改善することで妊娠への効果が期待できることもあると考えられます。

1-4 治療周期開始前に行う検査



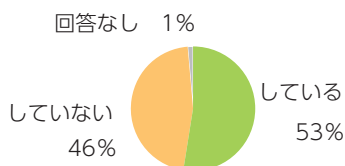
1-5 診療時の夫の同席率



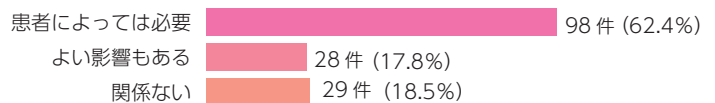
※ 濃い色になるほど夫の同席率が高くなります。その比率から採卵日の参加率が高いことがわかります。

1-6 患者が飲用しているサプリメントなどについて

① 飲用を確認している



② サプリメントの飲用について



③ 治療を補助するものとして効果を感じるものは？

